

## 『耕人塾』の実践が石巻地域を変える

『耕人塾』の研修も、残すところ2回となりました。これまでの研修や実践から、塾生一人ひとりの成長を感じています。そのいくつかを挙げてみます。

- ① 研修や実践活動の趣旨をよく理解し、集合時間や約束を守り、場にふさわしい服装や礼儀作法、言葉遣いができるようになってきている。
- ② 場に応じて、自分が何をしなければならないかということに気付き、他の人に対して配慮ある行動が見られるようになった。
- ③ 宿泊研修を通じて、自己を表現することの大切さに気付き、自分の考えを伝えようと努力する姿が多くみられた。
- ④ 他の人の良さを発見し、班やグループの中で協力して一つのことを作り上げることの喜びを見つけることができるようになってきた。
- ⑤ ゴミ拾いの実践活動に積極的に参加し、人目につきにくいゴミまで拾おうとするなど、自主的に行動する塾生が多くなってきている。
- ⑥ 自分が実践するだけでなく、ゴミ拾い活動に家族や友人にも呼び掛けて参加するなど、主体的に行動する塾生が増えてきている。

第5期『耕人塾』は、塾生一人ひとりの成長が顕著で、とても嬉しく思っています。また、この5年間の『耕人塾』の取り組みが、市民へも浸透しつつあると感じています。先日、中学校の同級生に会ったときに次のようなことを言われました。「『耕人塾』で取り組んでいる“挨拶・清掃・ゴミ拾い”は、大変素晴らしい活動だ。中・高校生が一所懸命ゴミ拾いをしている姿を見て感動した。これからは、我々大人もがんばらなければならないと思った。まず、身近なところから始めたいと思う。」この言葉を聞いて、「継続は力なり」という感を強くしました。地道な活動でも見てくれる人がいる。そして、その活動を認め、広めてくれる人がいる。『耕人塾』の皆さんが取り組んでいる「挨拶・清掃・ゴミ拾い」の活動が少しずつ石巻地域に浸透しつつあります。「誰とでも明るい挨拶が交わされ、公衆トイレなどの清掃が行き届き、ゴミが一つも落ちていない石巻地域」になって行くと信じています。

そこで提案です。「挨拶・清掃・ゴミ拾い」を『耕人塾』の活動の時だけやるのではなく、それぞれの塾生が、身近なところから実践してみませんか？毎日だけでなくもいいのです。一人でもいいのです。友達や家族と一緒にでもいいのです。塾生一人ひとりの活動が市民に広まり、必ずや石巻地域を住みよい街にしてくれると思っています。

## 「菖蒲田を清掃よりうつくしく」

末永愛梨さん(14歳)の文章を紹介します。「私たちの中学校は7月、地元の菖蒲田(しょうぶた)海水浴場の清掃を行いました。120人もの生徒のほか、地域の方々やボランティアの人たちも参加しました。清掃した後は、ごみがなくなり、以前より美しい海と砂が広がりました。(略)私はこの清掃に参加して、自分の町の海が自分たちの手できれいになる喜びを感じました。そして、自分の町がどんどん復興していくことに感動しました。今年の遊泳期間は短かったので、来年、再来年と期間が延びて、もっともっとたくさんの方々に来てもらい、私の住む町が一層活気あふれる町になってほしいと思いました。」愛梨さんのような思いが町を住みよくしていくのだと思います。『耕人塾』で取り組んでいる活動も同じですね。皆さんの力で「世界に誇れる石巻地域」にしていきたいと思います。